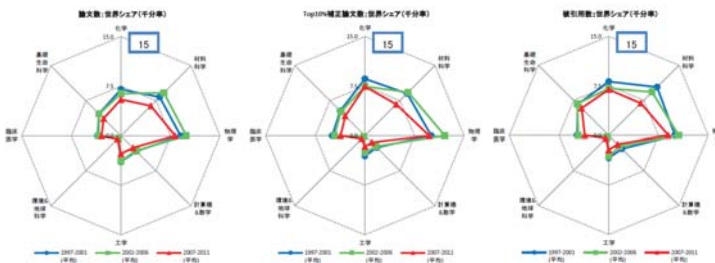


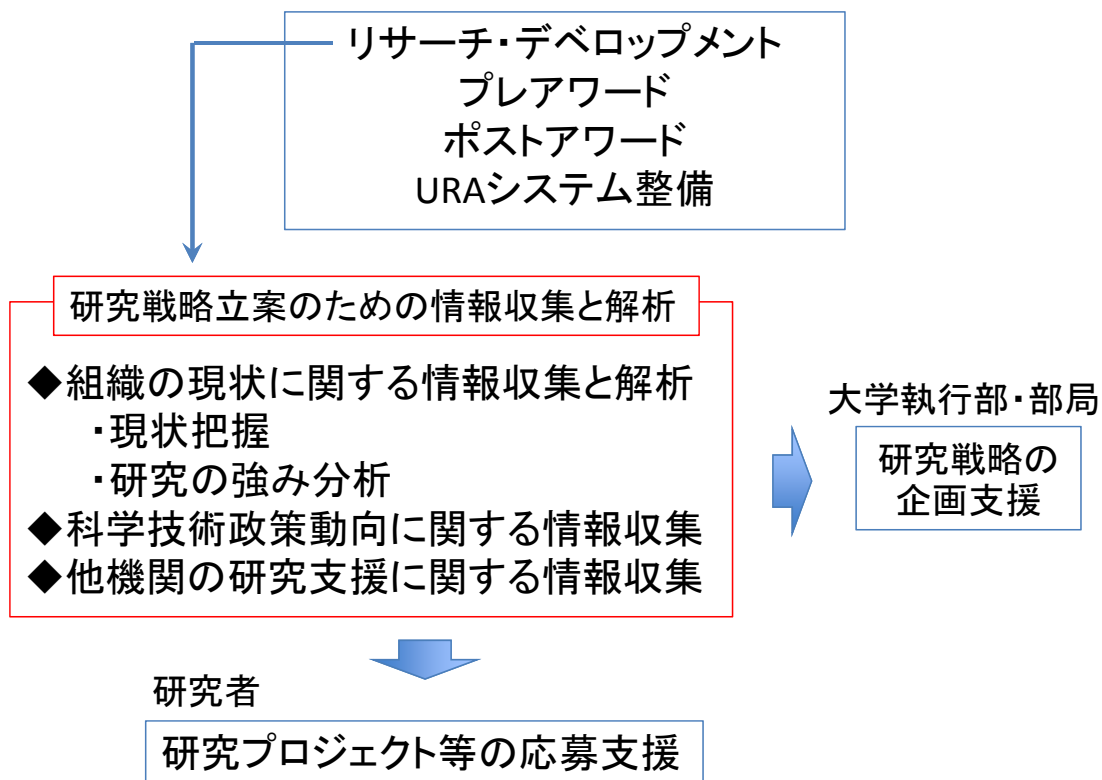
研究戦略立案のための情報収集・解析

シニアURA 菊田 隆



文部科学省科学技術・学術政策研究所
「研究論文に着目した日本の大学ベンチ
マーキング2011」(2012年8月)より

URAチームの活動



研究者とともに研究活動の**企画・マネジメント等**を行い、将来的には大学、公的研究機関等の**管理・運営等**を担っていく高度専門人材であるリサーチ・アドミニストレーターの育成・確保に当たっては、大学や公的研究機関等における社会的地位の確立と、適切な評価の下での明確なキャリアパスの確立、業務内容に応じた育成プログラムの充実等が求められる。

文部科学省科学技術・学術審議会総合政策特別委員会「我が国の中長期を展望した科学技術イノベーション政策について～ポスト第4期科学技術基本計画に向けて～(中間取りまとめ)」(2015.01.20)

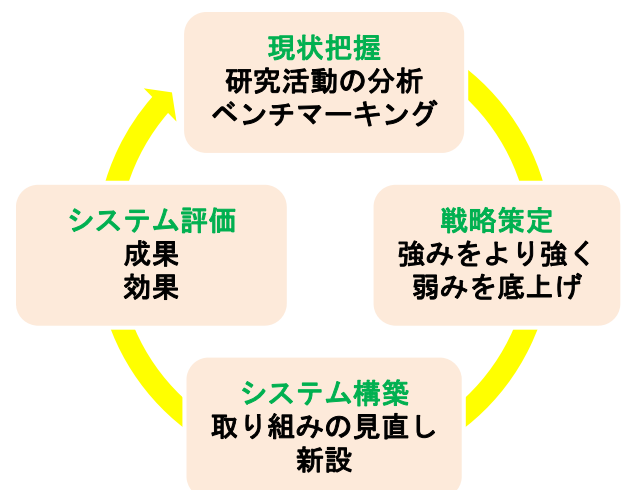
組織の現状に関する情報収集と解析①

■何のために情報収集するのか？

→ 現状を把握して、組織の研究力強化に向けた戦略・対策を検討するための**データを提供**するため

■どのように分析するのか？

→ **ベンチマーキング**による強み(弱み)分析
→ **時系列**データによる傾向分析



組織の現状に関する情報収集と解析②

■主な情報収集

・統計データ

- 科学研究費補助金配分結果(文部科学省・日本学術振興会)
- 競争的資金配分結果(各省庁)
- 公的統計(科学技術研究調査、学校基本調査など)
- 各研究機関の年報・要覧など

・データベース

- 学内データベース
- 商用データベース
- KAKEN DB(国立情報学研究所)
- 特許情報DB(特許電子図書館)
- 大学ポータル(大学評価・学位授与機構)

・大学ランキング

- Times Higher Education World University Rankings
- QS World University Rankings
- Academic Ranking of World Universities (ARWU)

・独自調査

- アンケート調査(定量)
- インタビュー調査(定性)

組織の現状に関する情報収集と解析③

■分析指標の可能性検討

・Altmetrics

論文やデータセットなど様々な研究成果物の影響を、ソーシャルメディアの反応を中心に定量的に測定する手法と、その手法を用いて新しい研究の影響度を測定する活動を指す。

文部科学省科学技術・学術研究所 科学技術動向2013年3・4月号

・Science Linkage

製品やサービスに利用される技術(産業技術)がどの程度、科学(サイエンス)に依拠しているかを示す指標。通常、一つの特許が引用する論文の数で測られることが多い。

東京大学政策ビジョン研究センター

http://pari.u-tokyo.ac.jp/unit/words/words_s/s_1.html

科学技術政策動向に関する情報収集と解析

- 文部科学省等の審議会ウォッチング
 - 定期的なWEB巡回とトピックのレポート
 - 傍聴と記録の作成
- 政府予算
 - 概算要求
 - 予算案
- 公募説明会への参加
- ファunding・エージェンシー

他機関の研究支援に関する情報収集と解析

- 国内外の調査
- 対象
 - 大学、公的研究機関、研究費配分機関など
 - 各種セミナー・学会
- テーマ
 - URAシステム
 - 研究評価
 - 研究推進体制
 - 学術誌データベース
 - 人文・社会科学系の研究支援

研究戦略の企画支援①

■ 執行部

- 組織の現状・分析結果のレポート
- 審議会等傍聴記録作成 & 会議資料回覧
- 大型補助金への申請支援
- 新規プロジェクトの企画支援



《効果》

URAチーム発足により、上記情報の流通が円滑に行われるようになったと考える

研究戦略の企画支援②

■ 部局

- FD・SD講演会の実施とフォローアップ
- セミナー・WSの実施(勉強会、新任研修等)



《効果》

- 国立大学を取りまく政策の動向や本学の現状に関する情報に接する機会が少ないと思われ、有効な情報提供ができたと考える
- IRに関するWS後に分析ツール利用希望が増加 → 各部局における分析力の強化に貢献した

研究プロジェクト等に対する支援

- 大型科研費、CREST、さきがけ等の応募支援
 - － 応募書類の内容チェックとアドバイス
 - － 模擬ヒアリング
- 日本学術振興会特別研究員の応募支援
 - － 特別研究員説明会の講師
 - － 申請書作成支援（作成ワークショップ、書き方セミナー、提出前相談）
 - － 模擬面接



《効果》

特別研究員では何らかの支援を受けた者の採択率は、支援を受けなかった者より高い

今後の課題

■ 情報提供の高度化

執行部のニーズを先取りした情報提供と戦略オプションの提示（URAは情報提供を行うのみで、評価や戦略策定は執行部が行う）

■ 新たな指標開発

教育研究活動全体の状況を適切に把握するために多角的な指標開発を行い、書誌情報だけに頼ることのない調査・分析体制を整備

■ 学内URAネットワークの構築

IR分析を通じて構築されつつあるリサーチ・アドミニストレーション・ネットワークのさらなる充実

■ データベースの整備

学内の各種データベースを共同利用できる仕組みの構築